

../

ゆったり楽しむ高等数学
【第 22 回】ルジャンドル多項式

../

【趣旨】

数学の楽しみ方には二つ（もっと？）あると思います。
一つは今ある知識を使って難問を解く楽しみ。
もう一つは数学の美しい理論体系を知る楽しみ。

このメルマガでは後者を読者として想定し、だいたい月一回のペースで高等数学の基礎的な問題を出題します。

初めてこのメルマガを読まれる方は、
<http://www.geocities.co.jp/tsure2gusa/melmag.html>
にも目を通していただくと、よりお楽しみいただけます。
このメルマガの意義と読み方を簡単に説明しています。

前回の問題と解答例

[問] 微分方程式

$$\frac{d}{dx} \left\{ (1-x^2) \frac{dP_n}{dx} \right\} + n(n+1)P_n(x) = 0$$

を満たす多項式をルジャンドル多項式という。このとき次の関係式を示せ。

$$\int_{-1}^1 P_m(x)P_n(x)dx = 0$$

ただし、 $m \neq n$ 。

[解]

$$\begin{aligned} \frac{d}{dx} \left\{ (1-x^2) \frac{dP_n}{dx} \right\} + n(n+1)P_n(x) &= 0 \\ \frac{d}{dx} \left\{ (1-x^2) \frac{dP_m}{dx} \right\} + m(m+1)P_m(x) &= 0 \end{aligned}$$

であるが、上式に $P_m(x)$ を、下式に $P_n(x)$ をそれぞれかけて差をとり、積分すると

$$\begin{aligned} \int_{-1}^1 dx \left[P_m(x) \frac{d}{dx} \left\{ (1-x^2) \frac{dP_n}{dx} \right\} - P_n(x) \frac{d}{dx} \left\{ (1-x^2) \frac{dP_m}{dx} \right\} \right. \\ \left. + n(n+1)P_m(x)P_n(x) - m(m+1)P_m(x)P_n(x) \right] = 0 \end{aligned}$$

を得る。第一項、第二項に対して部分積分を行うと、

$$\begin{aligned} & \left[(1-x^2)P_m(x)\frac{dP_n}{dx} \right]_{-1}^1 - \left[(1-x^2)P_n(x)\frac{dP_m}{dx} \right]_{-1}^1 \\ & - \int_{-1}^1 dx \left[(1-x^2)\frac{dP_m}{dx}\frac{dP_n}{dx} - (1-x^2)\frac{dP_n}{dx}\frac{dP_m}{dx} \right] \\ & + (n(n+1) - m(m+1)) \int_{-1}^1 dx P_m(x)P_n(x) \\ & = (n(n+1) - m(m+1)) \int_{-1}^1 dx P_m(x)P_n(x) = 0 \end{aligned}$$

を得る。仮定より $m \neq n$ なので

$$\int_{-1}^1 dx P_m(x)P_n(x) = 0$$

を得る。

解説

実はこの解法は、「【第 14 回】エルミート行列」でやった、「エルミート行列の、異なる固有値に対応する固有ベクトルは互いに直交する」ことを証明したときと同じ論法です。この微分方程式を $P_n(x)$ ベクトル、微分演算子 線形演算子、 $n(n+1)$ 固有値と捉えれば、この線形演算子はエルミート性を持っていることが示されます。ですので、第 14 回と同じ論法が使えたのです。ちなみに量子力学では、この演算子は粒子の角運動量の大きさを表しています。

問題

[問] それぞれ正規分布に従う確率変数 X と Y があり、試行の結果次のような標本が得られたとする。

X	10.9	10.9	12.7	13.1	10.5	10.6	11.2	9.8	8.5	8.2
Y	12.5	12.4	10.6	13.0	11.2	11.1	14.3	10.9	11.6	12.6

このとき、 X と Y の母分散に差があると言えるか？ 有意水準 5% で答えよ。ただし、自由度 (9,9) の F 分布の上側 2.5% 点は 4.03 である。

後記

ウチの長男は初めての夏休みです。毎日遊びほうけてます。私が子供の時もそうでしたが。

